

## 自己評価表

愛媛県立八幡浜高等学校(全日制)  
学校番号(34)

教育方針	1	校訓(五綱領・勉学 礼儀 健康 融和 奉仕)を基調として、国家社会の有為な形成者としての資質を養う。	重点目標	1	「随処作主」 ― 誇りと自信を持ち、積極的にチャレンジする ―
	2	社会の変化に柔軟に対応し、自らの進路を切り拓く確かな学力を育成する。		2	○ 文武両道の進学校
	3	個性を尊重し、国際的視野を持った心豊かな人間を育成する。		1	○ 文武両道の進学校
	4	安全・安心で充実した教育環境のもと、健康的に社会で生きる力を育む。		2	Hachiko Diploma Policy(Hachiko DP)

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方針
学習指導	・新学習指導要領に即した学習指導と評価 ・教員の実践的指導力の向上	・生徒の実態及び多様な進路に応じた学習指導の研究と実践	B	・学習指導の研究を進めることはできているが、生徒がますます多様化しており、更なる研究が必要である。	・一人一台端末の活用や教科横断的な学習など、生徒の思考力・判断力・表現力等を高める学習指導を研究・実践していきたい。
		・生徒の実態に応じた適切な評価方法の研究と実践	B	・新学習指導要領における評価方法等について研究を進め、実践できている。	・適切な評価を実践するとともに、規準等の検証・改善を進めていきたい。
		・研修・研究授業の参加5回以上 A: 5回以上、B: 4回、C: 3回、D: 2回、E: 1回以下	B	・1月の段階で、A: 63%、B: 10%、C: 17%、D: 10% (4名)の参加状況となっている。	・STEAM教育に関する校内研修をより充実した内容にできるように運営に努める。
		・登下校時の交通事故0件	C	・12月末現在で、3件の自転車事故の報告があった。昨年と比べると4件の減少で、過去5年間で最も少ない件数であった。	・昨年から実施している生徒議員による朝の登校指導を継続し、自転車通学生の交通ルールや交通マナーの指導を図り、交通事故の未然防止に努める。
生徒指導	・生徒の規範意識の向上と育成	・8・20までに全校生徒が登校完了	B	・生徒の登校時間が全体的に早くなってきていると感じる。8・20を過ぎて登校する生徒は数名である。	・昨年から実施している生徒議員による朝の登校指導を継続し、自転車通学生の交通ルールや交通マナーの指導を図り、交通事故の未然防止に努める。
		・学校行事・奉仕活動やボランティア活動に主体的・積極的に参加する生徒100% 生徒のアンケートで主体・積極的に参加したと回答した生徒数 A: 70%以上、B: 69~40%、C: 59~50%、D: 49~40%、E: 40%以下	C	・生徒のアンケートで「奉仕活動やボランティア活動に参加したか」に対して42%が参加したと回答した。未だコロナ禍の影響が続いており、積極的な参加に至らなかった。	・来年度も新型コロナウイルス感染予防対策を十分に考慮した上で、可能な範囲で生徒の主体的なボランティア活動の参加が実現できるよう広報等の充実を図りたい。
進路指導	・進路指導及び教職員の協働体制の強化 ・望ましい勤労観・職業観と高い学習研究への意欲の養成	・進路指導課と教職員相互の協働体制を強化し、生徒の進路希望達成率100%を目指す。	B	・種公立大学の案内入試に29人がチャレンジし20人合格(合格率69%)。進路指導課と3年同相互の協働体制は確立できている。	・進路指導課としてのサポートが直近の受験に備ってしむ。1・2年の指導にも貢献できる余力と工夫が必要。
		・キャリア教育の卒業を目指した理系活動及びインターンシップ等諸活動の深化を目指す。	B	・インターンシップや合同企業説明会、社会人による講習などを充実させて職業や地域理解につなげ、学習意欲の向上に努めることができている。	・1年次から3年間を通した計画的なキャリア教育の更なる充実を図りたい。
健康・環境	・新型コロナウイルス対策の徹底 ・学校設備の安全点検と改善	・教室などの教育環境全般において、換気の徹底やマスクの着用、消毒を実施していく。 ・事務課と連携して学校設備の改善に努める。	B C	・新型コロナウイルスが長期にわたり、生徒も教員も疲れからか予防の意識が薄れてきている。換気や消毒に関して再度気を付けることが大切に思う。 ・設備の老朽化と改善が追いつかない状態であるが、生徒自前で施設について考えていく必要がある。 ・以前から課題になっていたバリアフリーの設置、1階通路のロープ工事が進められた。	・生徒会・保健委員・環境整備委員等をもっと活用して意識を維持していく必要がある。 ・小中学校のトイレが、これだけ整備されている中で、高校に進学したらひどいといわれたいトイレ整備が必要不可欠。
図書	・読書活動の充実	・読書活動の推進:生徒1人貸出5冊以上及び10冊読破	D	・1月末段階で生徒1人あたり貸出数が1.2冊となっており、特に2年生の貸出数が少ない。様々な要因が考えられるが、年々貸出数が少なくなっている。	・利用しやすい環境作りにも、図書委員に積極的な利用促進の呼び掛けを行わせる。
		・図書室を利用したことのない生徒・教員0人	D	・約半数の教員が図書室を利用していない。	・読書会を企画し、生徒が主体的に活動し充実した内容になるように運営をサポートする。
情報	・情報発信の充実 ・学校教育活動の発信	・ホームページの適切な更新(1日当たり800件以上のアクセス数) A: 1000件以上、B: 800件、C: 600件、D: 400件、E: 200件	C	・ホームページの更新は適宜実施することができた。1日のアクセス数が昨年度は平均40件だったが、今年度は70件と約70件減少している。魅力あるHP作成に努めていきたい。	・各課のホームページ作成委員と連携をとり、更なる充実を図りたい。入道日記、同窓会などの内容を充実させ更なるアクセス数の増加を図る。
		・PTA月報「PTA会報」の発行によって、PTA行事、各種研修会の広報や教職員紹介、生徒の活動の紹介を行い、保護者との連携を深める。	B	・コロナ禍の中、活動に制限はあったが、教育活動の様子を発信できた。ただ、内容や周知の仕方について更に検討していく必要がある。	・PTA月報」及び「PTA会報」を一層充実させ、様々な生徒の活動やPTA行事等を発信していきたい。また、その周知方法や内容についてもより多くの意見を反映させていくことができるように検討していきたい。
人権・同和教育	・「部落差別解消法」の具現化 ・人権・同和教育ホームルーム活動の年間計画の見直し ・人権委員会活動、人権・同和教育研修会の充実	・部落差別解消法の具現化	B	・内容を精査しながら、次年度の学習へと発展させる活動ができた。	・引き続き「人間の輪」の改訂を見据えて、内容を精査しながら計画的に活動を行ってきたい。
		・委員活動では、夏季休業中に講師を迎え、実践的な研修ができた。また文化祭では「V字」を行い、充実した一年であった。校内研修では、講義等を通して、同僚問題について様々な知識や情報を共有することができた。	B	・委員活動では、夏季休業中に講師を迎え、実践的な研修ができた。また文化祭では「V字」を行い、充実した一年であった。校内研修では、講義等を通して、同僚問題について様々な知識や情報を共有することができた。	・委員会活動においては、地域と連携した活動を行ってきたい。校内研修については研修等をより充実させ、教職員へ様々な情報を伝えていきたい。
業務改善	・適切な勤務時間 ・主体性を持って行動できる生徒の育成	・教職員の勤務時間を守り、体勤時間を確保する。業務の効率化を図り、時間の有効活用を図る。	B	・各自の生活状況に応じ、早退・遅出勤務を推奨し、時間の有効活用を図った。出退勤状況を毎月確認し、適切な勤務時間になるようアドバイスをした。	・教職員の勤務時間を把握し、長時間労働の改善を促す。また、業務の効率化をより推進していく。
		・基本的な生活習慣の確立	B	・ほとんどの生徒が8時20分までに登校完了ができていたが、予習・復習を毎日行っている生徒が76%と、減少傾向にあり、家庭学習時間が不足している生徒が見られた。	・基本的な生活習慣を確立させ、常に向学心を持って学習に取り組むことのできる集団を目指す。
学年	・文武両道の実現～家庭学習時間の確保～	・自学と部活動の両立ができていると答えた生徒が約8割であるが、学習に対する取組が不十分な生徒も見られた。	B	・自学と部活動の両立ができていると答えた生徒が約8割であるが、学習に対する取組が不十分な生徒も見られた。	・2割の生徒が文武両道の実現ができていないことを理解し、基礎基本の徹底、苦手科目の克服ができるように指導していきたい。
		・自己実現に向けて～進学・就職ともに100%を目指す～	B	・就職については就職率100%を達成した。また、9割以上の生徒が進路指導や個別面談が役に立っていると評価しており、生徒の学力や適性に合った進路選択ができる。	・引き続き、適切な進路指導を行い、卒業後も自分の決めた進路で、より社会に貢献できる人材となるように努力を続けてほしい。

※評価は5段階(A:十分な評価があった B:かなりの成果があった C:一応の成果があった D:あまり成果がなかった E:成果がなかった)とする。